

〔挿し木を勧める〕 奥原弘人

園芸にはもちろん植物を調べるにも植えたり殖やしたりする必要のある場合がある。殖やすには一般には種子を使うか挿し木を行うかの方法が行われているが、何れにしても100%成功するとは限らず特に挿し木には問題がある。

近所の園芸店に高さ20cm足らずのイチジクに3個の花序をつけているのが出ているが、これは挿し木である。このように挿し木によれば早く花や実をつけて好都合である。また、山野にあるものについては小枝を採るだけであるから多数でなければ山荒らしの非難を受けることもないであろう。

柳類は挿し木の成績がよいと言われている。今までに試みたのは大部分が成功している。昨年コゴメヤナギとみられるものの枝垂れを見つけたので今春行って見たところ、細枝の大部分が切り捨てられていた。既に幾日か過ぎていて皮も乾きかかっていたが、持ち帰って挿したところ半数は成功して7月現在30cmに新枝をのぼしたのもあり枝を垂らし始めた。ケシヨウヤナギは絶対に成功しないとの記事を何かで読んだ記憶があるが、これも大部分が成功して現在45cm以上に新枝が伸びている。

林業では杉は挿し木で苗木をつくり、園芸で菊作りは挿し木を行うのが常識になっている。菊は草本であるから挿し木というのは変であるとか、挿し芽と言うのがよいという人もあるが、ここでは言葉は問題にしないことにする。

試みたところでは針葉樹ではイブキ・ヒメアスナロ・セコイヤは大部分成功したが、メタセコイヤとラクウショウは余り成績がよくなかった。照葉樹ではシャリンバイ・サネカズラは成績がよく、ウスベニシキミもよいが、モチノキは2年連続失敗し、アコウは葉を広げ

新枝を1cm余のぼしたところで落葉した。センリョウは水挿しにしたところ、同じ節から上下に新枝と根をのぼしたので鉢植えにした。

落葉樹では桜を試みたところ3種共好成績であった。またトサミズキ・ベニドウダンも大部分が新枝をのぼし、ヒメシャラ・ダイセンミツバツツジも少し遅れているが見込は充分である。

草本ではリンドウと3種の野生菊は大部分成功し、ホソバヤマハハコとみられるものは30cmほどのものを上下に2分して挿したところ、上下共元気に枝を伸ばしている。

なお挿し木には発根剤を使うこともあって、上記の試みでもモチノキ・アコウ・ウスベニシキミ・ベニドウダン・ダイセンミツバツツジなどに使ってみた。

以前近所に一ヶ所に2~3個の花序をつけたフリソデヤナギがあって珍しいと見ていたが道路の拡幅で無くなってしまった。これも挿し木にしておけばよかったのにと悔やまれる。

〔接ぎ木の実験〕 北條慎一

今村駿一郎先生指導で落葉植物と常緑植物を接ぎ木をしてどう影響するかを実施したその結果を報告する。

1990年6月10日ネズミモチとイボタノキの接ぎ木をして成功した。

ネズミモチは常緑低木、イボタノキは落葉低木であり、イボタノキにネズミモチが接着した。すなわちイボタノキからネズミモチがもらい水をしてすくすくと成長している。この両者は同一科に属する植物である。この植物は形成層のはたらきにより道管篩管が形成され完全に密着したものである。イボタノキはイボタノキ、モチノキはモチノキと両者の影響はないことがわかった。